

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「協働教育推進事業」(宮城県石巻市)

取組の概要や経緯

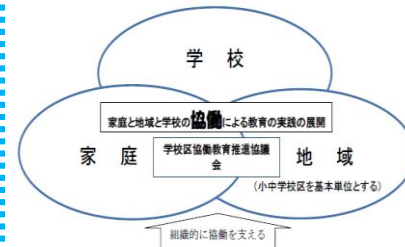
「子どもたちの抱えるいじめ、不登校、学力や体力の低下等の諸問題の解決」並びに「生きる力をはぐくむ教育活動の充実・改善」という課題解決に向けて、「学校・地域・家庭が、それぞれの機能を果たしながら協働し、社会の中でたくましく生きる子どもたちを地域全体ではぐくむ協働教育」を推進する。



内容

令和6年度は、すべての小・中・高等学校に事業を委託している。研修会や会議等の機会を活用しながら各学校の教職員及び学校支援地域コーディネーターと連携し、人材発掘も含めた各種情報の共有を図り、事業を進めていく。また、地域学校協働活動代表者連絡会議を年間2回開催し、市内の学校(地域)で実践している地域学校協働活動の情報の共有を図り、今後の活動推進に向けての協議、検討を行い、既存事業の調整・整備を図っていく。また、各学校区においてどのような地域学校協働活動が行われているか、地域連携担当教諭と学校支援地域コーディネーターが現状と課題を共有しながら、「学校を核とした地域づくり」に向けて話し合いを行っている。

地域全体で(家庭・地域・学校)子どもたちを育てる
【社会の中でたくましく生きていく力を養い育てる】



ポイント

- ① 学校支援地域コーディネーターの配置
- ② 石巻市地域学校協働活動代表者連絡会議の開催

成果

■実績

単位:回

	R2	R3	R4	R5	R6
地域連携事業の実践数	180	180	180	150	610
実績	151	183	175	656	—

各学校において、学校・地域・家庭が、それぞれの機能を果たしながら協働する多様な「協働教育」のプログラムが創出され、様々な実践が展開できる。このことにより、児童生徒の学習活動の質を高め、学ぶ意欲をはじめとする確かな学力の向上、多様な人々との関わりや体験を通じた豊かな心の育成が図られている。

今後の方向性

地域と学校との協働活動を推進していくためには、組織的・継続的な仕組みが必要である。今後は、研修会や会議等の機会を活用しながら各学校の教職員及び学校支援地域コーディネーターと連携し、人材発掘も含めた各種情報の共有を図り、事業を進めていく。また、各小・中・高等学校区で実践されている協働教育の取組について、今年度からは学校運営協議会と地域学校協働活動の一体化推進に向けて石巻市協働教育支援会議に代わり新たな会議体である地域学校協働活動代表者連絡会議を年2回設置し、今後の活動推進に向けての協議、検討を行う。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「地域学校協働活動推進事業」(宮城県気仙沼市)

取組の概要や経緯

学校・家庭・地域の協働による学びを通じた地域コミュニティづくりと、地域全体で子供を育てる体制づくりに資するために、地域人材や社会教育関係団体と連携・協働し、公民館を核として「**気仙沼市地域学校協働活動推進事業**」を推進している。



内容

学校・家庭・地域(行政、社会教育関係団体、NPO、企業等)の連携・協働により、**子供の学習機会の創出、幅広い世代との交流、社会教育資源の活用**を活発に行うことで、**子供の深い学びにつなげ、地域のコミュニティづくりを推進**する。その調整を**地域学校協働活動推進員が核となり、公民館担当職員、地域連携担当教員が連携・協働**して行う。

- ①学校の教育活動への地域住民の参画による支援、活動内容の充実と深い学び
- ②地域活動への子供の参加・多世代との交流・地域ボランティアの協力
- ③家庭教育支援による子育て世代へのアプローチ、家庭教育支援チームの活躍



ポイント

- ①**学校運営協議会との一体的推進**を目指し、地域学校協働活動推進員(公民館担当職員、地域連携担当教員が連携)が事業の立案、学校、関係団体との連絡・調整を行う。
- ②地域活動への参加による**多世代での交流活動**を推進する。(地域ボランティアの確保)
- ③子供や地域人材が**安心して参加できる体制**を整える。(地域内の人のつながり)

成果

- ・多くの講師や地域ボランティアの協力を得て、事業を実施したことで、**より深い学びの実現**につながった。
- ・学校運営協議会では、「学習支援の在り方」を熟議テーマとして設定した協議会もあり、**多くの地域住民の参画を得て、子供を育てていこうとする意識の醸成**につながっている。
- ・地域住民が地域の子供と関わる機会の創出につながり**地域のコミュニティの活性化**につながっている。

	事業数 (回)	参加者数 (人)
学校支援	115	6,011
地域支援	22	763
家庭支援	24	798
合計	161 (-5.8%)	7,572 (+13.6%)

今後の方向性

- ・学校運営協議会との一体的推進を図るため、地域学校協働活動推進員、公民館担当職員、地域連携担当教員を核とした協働体制を構築する。
- ・各学校課題や地域課題、地域の特性を生かした活動に加え、幼児期を対象とした事業や家庭教育支援の充実を図る。
- ・PTAや各地域の団体などとの連携体制をより一層広げ、地域ボランティアを確保するとともに、事業推進のための協力人数の増加を目指す。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「学校を核として」地域・学校が連携・協働する教育活動 (宮城県名取市)

取組の概要や経緯

子供を取り巻く問題が複雑化・多様化している背景を踏まえ、地域と学校が子供の成長を支えるという同じ目的を持って教育課題に取り組むことを目指してきた。その仕組みとして、**小・中・義務教育学校区毎に地域学校協働本部を設置し、地域の实情に合わせた活動が持続的かつ継続的に実施**できるようにしている。



内容

令和6年度も、**市内全小・中・義務教育学校区で事業を展開**した。1つの学校区では**公民館がコーディネーター機能**を担い、それ以外の学校区では市が委嘱した32名の**地域住民のコーディネーターが地域の实情に合った活動**を行っている。既存の学校支援活動に加え、教育課程の中に地域学習を位置づける学校が増えてきた。また、地域団体や高校、公民館や児童センターと連携した地域活動も盛んに行われるようになってきた。中学校では、キャリア教育を行う際の講師の選定や連絡調整等、運営の一部を協働本部が担うことで教員の負担減にもつながっている。他の学校区でしているよい事業を地域の実態や学校の規模に合わせて取り入れる学校区もみられ、本部同士の相乗効果が見られる。

ポイント

- ①**協働本部と市が委託契約を結び**、市は活動に係る経費を委託料として支払う。
- ②地域コーディネーター、教員、公民館職員を**一堂に会した研修会を実施**。
- ③全小学校区にある公民館が、協働本部・活動の**連携・推進に寄与**。



成果

- ・多くの方に見守られることで、子供たちの学びや体験活動が充実するとともに、安全の確保につながっている。
- ・学校支援に地域住民が参加すること、地域活動に子供が参加することによって地域の活性化につながるとともに、保護者や地域住民の学校に対する理解が深まっている。
- ・子供達が活動を通して、地域のことに興味をもち、地域行事や公民館のイベントに参加する人数が増えている。

今後の方向性

- ・コーディネーター機能の強化・多様で継続的な活動の実施を図り、名取市らしい体制で取り組む。
- ・持続可能な本部運営ができるよう、役員やコーディネーターの育成に努める。
- ・学校運営協議会との連携と役割分担の明確化。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「地域学校協働活動の取組事例」(宮城県角田市)

取組の概要や経緯

「第2期角田市教育振興基本計画」の中で目指す「基本目標3」として、「学校・家庭・地域の連携の強化を図り、社会全体で子供を守り育てる環境をつくる」とし、「地域学校協働活動」を推進していくこととしている。

内容

- 角田市地域学校協働本部を設置し事業計画、また協働活動の検証及び評価を実施する。
- 「角田市地域学校協働活動ネットワーク会議」の開催
- 地域の教育力を活用した学校教育活動を充実させるために
 - ①教育委員会「学校支援ボランティア」の募集
各学校のボランティア派遣要請を受けてボランティアを学校に派遣できるように学校支援ボランティアの募集を実施。
 - ②社会見学・職場体験・職業人講話を受入れ可能な事業所リストの作成
市商工会、市商工観光課、市内の企業などの協力を得て受け入れ先を確保するため協力依頼の実施。

ポイント

- ①子どもを地域全体で育むために、地域と学校をつなぐ仕組みをつくる。
- ②協働による教育活動を通じて、子ども達のコミュニケーション能力の向上や地域への理解・関心を深め地域を担う人材を育成するとともに、地域住民の生きがいづくりを推進し、地域の活性化を図る。

成果

- 「角田市地域学校協働活動ネットワーク会議」を実施し、地域の課題や学校の問題を話し合ったり、地域や学校の協働教育の事業の取組事例を発表することで情報共有が行われ、協働教育の目的や事業の必要性の理解がさらに深まってきた。



角田中学校「職業人講話」



角田小学校「花植え」



横倉小学校「戦争体験講話」

今後の方向性

- 地域学校協働活動ネットワーク会議・研修会を引き続き実施する。
- 学校支援ボランティアを随時、学校に派遣する。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」(宮城県多賀城市)

取組の概要や経緯

地域で学校を支援する仕組みづくりを促進しながら、子供たちの健やかな成長を支援するとともに、地域住民の生涯学習や自己実現、住民同士の関わりを強化し、地域の教育力向上を図ることを目的としている。また、令和4年度から、地域学校協働本部を設置した。地域学校協働活動推進員を軸として、4つの中学校区において学校支援活動を展開している。学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整える。

内容

地域学校協働本部の4つの中学校区において、地域学校協働活動推進員を中心に、学校と地域との支援内容の検討や学校支援活動年間計画等の情報交換を行い、支援内容を決定していく。

地域学校協働活動だよりの発行やホームページにより、学校支援活動について、周知する。

ポイント

- ・地域学校協働活動推進員を中学校区ごとに複数人配置することで、学校からの多様なニーズに応えられるようにしている。また、地域のニーズを学校のニーズとマッチングし、地域づくりを進める。
- ・地域学校協働本部と学校運営協議会で連携し、会議等で学校支援活動の事例を紹介することにより、学校と地域の連携・協働の継続を図る。また、学校と地域の団体や住民と緩やかなネットワークづくりを行う。

成果

- ・地域学校協働活動推進員が、学校運営協議会委員に加わることで、連携を取りやすい仕組みづくりができた。
- ・地域学校協働活動推進員が、学校の状況を理解し、学校のニーズに対して、地域とのつなぎ役となることができた。また、子どもと教員だけでなく、ボランティアの満足度も高く、地域住民の生きがい・やりがいにつなげることができた。
- ・学校支援活動に保護者や地域の団体の参画を促すことにより、学校・地域・保護者の新たな関わりを創出することができた。

今後の方向性

- ・地域学校協働本部と学校運営協議会の双方の機能を理解し、連携を促進し、子どもたちを地域みんなで育てる仕組みづくりと学校を核とした地域づくりを推進していく。



「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「地域ぐるみの教育支援」(宮城県登米市)

取組の概要や経緯

学校・地域教育力向上対策事業では、旧町域単位に協働教育コーディネーターを配置し、学校と地域ボランティアをつなぐことで地域全体で児童・生徒を育む体制を構築している。

放課後子ども教室では、放課後児童の安全・安心な居場所づくりのため、地域住民の参画を得て実施し、地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。

内容

①学校・地域教育力向上対策事業

地区内の小中学校へ支援ボランティアの派遣や市内10中学校でキャリアセミナーの調整など、地域と学校の連携を円滑にしている。

②放課後子ども教室

地域住民の参画を得て、スポーツや文化活動などの体験活動を行っている。



学校・地域教育力向上対策事業
米岡小 外国語活動



学校・地域教育力向上対策事業
米山東小 ふるさと民謡表現隊



放課後子ども教室
書道体験



放課後子ども教室
スパイス製作体験

ポイント

①統括コーディネーターを中心に協働教育コーディネーターが連携・協力し、教育活動を支援している。

②学校の授業にはない体験活動や、異学年及び地域住民との交流を行っている。

成果

①登録ボランティアや学校教員を対象に「特別の教科 道徳」を題材としたボランティア研修会を実施した。参加者数は約100名となり、学校支援ボランティア活動が盛んになる中で、子どもの育ちの現状と背景を理解し、皆で共通理解することができた。

②地域住民、地域の企業等の参画により、幅広い内容の事業を実施することができ、小学生の豊かな心の発達や育成に寄与した。

今後の方向性

①登録ボランティアや学校教員を対象としたボランティア研修会等の開催や学校運営協議会において理解を求めていく。

②学校や地域の状況を確認しながら、市内すべての放課後子ども教室において、各年度月1回程度の開催を目指す。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「『地域で子どもを育てる』感覚を醸成する地域学校協働活動」(宮城県大崎市)

取組の概要や経緯

幅広い住民や地域の多様な機関・団体等の参画のもと「地域学校協働活動」の推進を図り、地域全体で未来を担う子ども・青少年を支え、地域の活性化を図る。

内容

- 地域学校協働本部・・・類似組織含め、4つの本部(5小学校・3中学校)の活動を支援
- 学校支援活動・・・コーディネーター配置と保険加入により、安心して活動できる環境を整備
- 放課後子供教室・・・地域の力を生かし、3小学校区で実施
- 地域未来塾・・・家庭での学習習慣定着のため「サマースクール」「放課後学び支援」を開講



ポイント

- 【地域特性】地域の実情に応じた地域学校協働活動の展開
- 【地域の負担】既存団体を生かし、負担感が増大しないよう配慮
- 【地域づくり】地域づくりのひとつの手法として位置付け
- 【人材育成】「地域全体で子どもを育てる機運」とともに、「地域に育ててもらった感覚」を醸成

成果

- 地域学校協働本部の仕組みによる学校支援の拡大
- 地域コーディネーターの配置による新たな支援ニーズへの対応
- 地域未来塾参加者の家庭での学習時間の増加

今後の方向性

- 地域学校協働本部の継続支援と新規設立により、学校・家庭・地域・行政が連携した地域づくりを推進する。
- 学校支援ボランティアの間口を広げ、児童生徒との関わりが地域住民の生きがいとなるよう支援を継続する。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

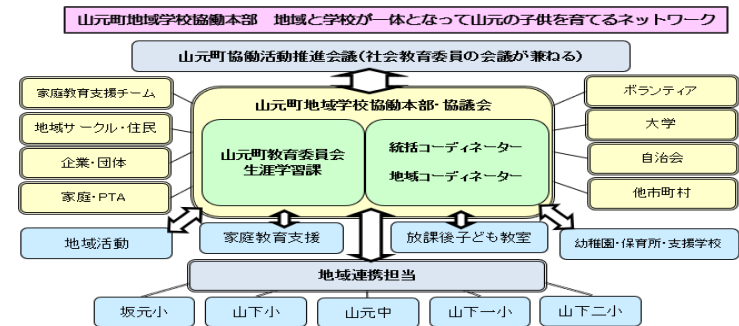
「山元町地域学校協働活動推進事業」(宮城県山元町)

取組の概要や経緯

「**地域と学校が一体となって山元の子供を育てるネットワーク**」をテーマとして、地域学校協働活動を推進している。

平成30年4月、山元町地域学校協働本部設置要綱、山元町地域学校協働活動コーディネーター設置要綱を施行し、**山元町地域学校協働本部**を設立した。

統括コーディネーター1名、地域コーディネーター3名と生涯学習課が協力・連携しながら事業を推進し、子供たちの育成と地域づくりを目指している。



内容

- **地域学校協働本部の整備** ⇒ 山元町協働教育の円滑な推進を図るために、「地域学校協働本部設置要綱」に基づいた協働本部を設置し、これまでの推進組織を基盤としながら、さらなるネットワークの構築を進める。
- **学校支援活動** ⇒ 学校の学習目標を共有しながら、地域と学校を結び、地域住民の生きがいづくりや、子どもの学びの充実と地域への理解と愛着を深める。
- **地域活動** ⇒ 世代間交流、障害者の生涯学習の推進、次世代リーダー養成、地域教育資源の活用など、あらゆる人が交流し、学び合いながら、豊かな心、社会性、自主自律、自尊感情を育むとともに、地域の担い手の育成や地域づくりを進める。



学校支援活動「のこぎりボランティア」

ポイント

- ① コーディネーターが**地域のボランティアとの連絡を密**にする。
- ② こどもセンター、教育総務課等、**他課室と連携し**情報共有することで事業の推進に役立てる。
- ③ **生涯学習を通した人材育成**に努め、**持続可能な活動**を展開する。

成果

- **学校支援活動** ⇒ 地域学校協働本部が組織されていることで、人材探しや活動計画の相談がしやすく、**学校の安心感**につながっている。また、支援に関わる方にとっての生きがいにもつながっている。
- **地域活動** ⇒ 地域の方々や様々な団体と積極的に関わり、支援することで、**地域住民のコミュニティ形成**の場、**ジュニア・リーダー等の次世代の担い手を育成**する場となっている。

今後の方向性

- 地域学校協働本部や地域ネットワークを持続可能な組織とし、**学校と地域の双方向での学び**を進めるとともに、**学校・家庭・地域の教育力向上の促進**を図る。
- 学校配置の地域連携担当教員と協働本部の協議及び連携の場を設け、**円滑な連携・協働体制を構築**する。
- **学校運営協議会との連携**を図り、地域学校協働活動を**一体的に進めていく**。
- 地域活動では、教育振興基本計画の下、**地域の人々が主体的に参加**でき、**充足感のある事業の在り方**を検討し、実施していく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「町は学校」学校・家庭・地域が連携した教育活動(宮城県大和町)

取組の概要や経緯

地域学校協働活動について話し合う場として、各校に「地域学校協働本部会議」を設置している。教職員と地域の方々が活動について意見を交わし、子どもたちの成長のためともに教育に携わる体制をとっている。

内容

各地域学校協働本部で各学校の年間の活動を検討し、実際の活動の際は、主に学校・地域の両コーディネーターが詳細を調整し実施している。

また、上部組織である地域学校協働活動運営委員会では、コーディネーターやボランティア向けの研修会の企画と実施、広報誌の発行などを通して協働教育の普及啓発に努めている。

ポイント

- ①地域ごとに地域学校協働本部会議を開催し、活動に関わる各地区団体の長が集まり話し合うことで、年間の活動の把握と支援体制を整えている。
- ②全地域の学校・地域の両コーディネーターが集うコーディネーター会議を開催し、意見や情報を交換する機会を設け、連携の強化を図っている。
- ③学校毎の活動記録写真を用いた「協働教育カレンダー」「協働教育ニュース」を作成・配布することで、活動の様子を共有している。

成果

- ・ボランティアが別地域の活動の支援を行うといった、地域の垣根を超えた活動が実現した。
- ・学校の困りごとを傾聴し、行政が調整に介入することで数年ぶりに職場体験を実施することができた。

今後の方向性

- ・電子媒体を活用することでコーディネーター間の情報共有を強化し、地域間での連携促進を図る。
- ・ボランティアの実態把握に努め、課題やニーズを整理し必要な対応を検討する。
- ・各活動が円滑に行われるよう、行政の役割を再検討する。



「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「色麻町地域学校協働活動推進事業【学校支援事業】【地域活動】」(宮城県色麻町)

取組の概要や経緯

平成17年度から継続している【学校支援】【地域活動支援】【家庭教育支援】の活動を、平成23年度より「協働教育プラットフォーム事業」として実施してきた。

平成29年度より、「地域学校協働活動」として、学校や地域、関係者の連携・協働を強化し、一体的な活動を推進できる体制づくりを目指した。

内容

【学校支援】【地域活動】【家庭教育支援】の各活動分野のコーディネーターと「地域学校協働本部」の企画・調整のもと、各種事業を実施した。

【学校支援】: 米づくり・エゴマ栽培・野菜栽培指導、部活動指導、校外学習随行 など

【地域活動】: サマーキャンプ(野外活動)、こどものまち2024(体験活動)、校外学習2024(町建設業組合との共催で「たこづくり教室」を実施)



ポイント

- ・各分野のコーディネーターを中心に密に連絡・調整を行い、事業の企画運営を行った。
- ・学校と密に連絡を取り、意思の疎通を図った上で学校支援を行った。
- ・町の他地域団体と連携し、事業を進めている。

成果

- ・初の試みで、町内で活動している団体との共催で「たこづくり教室」を実施し、地域連携の結びつきをさらに深めることができた。
- ・少子化で子供の数が減少している状況下でも、地域の歴史や文化を継承していく機会を提供することができた。

今後の方向性

- ・子供たちが参加しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、事業の見直しを図り、より活発に参加できる環境を整えていく。
- ・学校支援等におけるボランティアに参加していただく方々の研修を行い、より事業内容を詳しく知っていただく機会を提供していく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「元氣わくやふれあい町づくり事業」～子供たちの学びを地域で支える（宮城県涌谷町）

取組の概要や経緯

平成22年9月に元氣わくやふれあい町づくりサポートセンターを立ち上げ、学校支援本部事業として開始した。支援対象は町内全ての小中学校に展開し、学校支援や放課後子ども教室を地域住民と協働し推進している。平成28年4月から評価検証委員会を立ち上げ、各事業の課題や効果の測定、事業の評価・検証を行っている。

また、令和5年4月には実行委員会の設置要綱も整備し、併せて涌谷町地域学校協働活動推進員の設置要綱も整備している。

内容

学校支援活動では、学校の要請により、学校の環境整備や授業支援等を行っている。元氣わくやふれあい町づくりコーディネーターが、学校と地域ボランティアを繋ぎ調整を行い活動を行っている。

放課後子ども教室では、各小学校において、放課後子ども教室のコーディネーターが中心となり、地域性や学校の特性に合わせた事業を企画し、地域の中から講師を依頼するなど地域人材を積極的に活用し様々な体験学習の機会を提供している。

ポイント

- ①元氣わくやふれあい町づくり事業の地域学校協働活動推進員が各学校と密にコミュニケーションを取り、支援内容や支援者の検討を行い速やかに調整し支援している。
- ②放課後子ども教室は、各小学校の地域性や特性を活かした体験型の事業内容を企画。また、地域人材を積極的に活用することで地域との連携・協働の推進と地域コミュニティの活性化を図る。
- ③町内小中学校を訪問し、各種事業の説明を行い事業の理解、活用、情報の共有を図る。

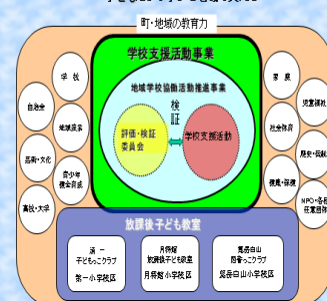
成果

学校支援事業においては、学校からの要請により、環境整備（図書整理等）や授業支援（バケツ稲、調理実習・ミシン・くぎ打ち等）、児童の見守り（PTA総会時などの見守り）、読み聞かせなどさまざまなボランティア支援が行われており、地域のボランティアが児童一人一人にサポートすることにより安全な環境にもと実施するができています。また、地域の方々が活動することで、地域と学校の自然な交流が推進され、地域コミュニティの活性化も繋がっている。

放課後子ども教室においては、参加児童がたいへん楽しみにしており、多種多様な講師とともに腹話術鑑賞や創作教室、スポーツリトミックや、高校書道部による書道教室等を体験することで、多世代交流や地域住民との交流も深めており、支援しているスタッフや、ボランティアなど、地域住民の活動の場づくりや生きがいづくりにも大いに役立っている。

元氣わくやふれあい町づくり事業

～子どもたちの学びを地域で支える～



今後の方

- ・学校支援活動においては、学校と地域住民が気軽に協働できる体制を学校と連携し図る。
- ・放課後子ども教室においては、小学校間での体験格差の解消を図る。
- ・支援者となる地域人材の育成、発掘に努め、また保護者にも参加を促し、協働教育の推進を図る。
- ・『できる支援をできるときに、できることから』を合言葉に地域住民の協力をもらいながら、よりよい協働教育の推進を図る。